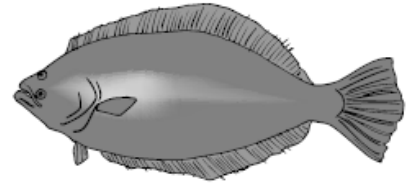


# ヒラメ

*Paralichthys olivaceus*

地方名  
あおば、てっくい



## 生態

寿命：オス10歳以上、メス20歳以上  
 成熟：オス2歳以上、メス3歳以上  
 産卵期：5月～7月  
 産卵場：水深30m以浅の粗砂及び砂礫地帯  
 分布：千島列島から九州、東シナ海に分布。  
 生態：産卵後1～2日でふ化し、約1ヶ月間の浮遊期間の後に水深10m以浅の砂または砂泥域に着底し、成長に伴い深所へ移動する。生息域は水深100m以浅の海域。季節的に深浅移動する。稚魚はアミ類を主に摂餌し、成長とともに魚類、イカ類を捕食する。

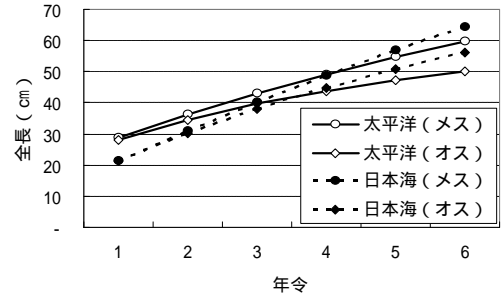


図 青森県におけるヒラメの成長

## 主な漁業

ヒラメはほぼ周年にわたって県内全域で漁獲され、主漁期は日本海から津軽海峡西部にかけては5月～7月に底建網・釣り、陸奥湾から津軽海峡東部、太平洋北部にかけては5月～7月及び11月～翌年1月に定置網・底建網・刺網で、太平洋南部では9月～10月に刺網で、11月～翌年5月ごろまで小型底びき網で漁獲される。

## 資源評価

昭和50年代前半には1,000トンを超える漁獲量があった。その後急激に減少し、平成元年の224トンをもっとして、増加に転じ、平成12年には過去最高の1,807トンとなった。再び減少後、平成17年以降増加に転じ、平成19年の漁獲量は昭和50年以降3番目に多い1,429トンとなった。

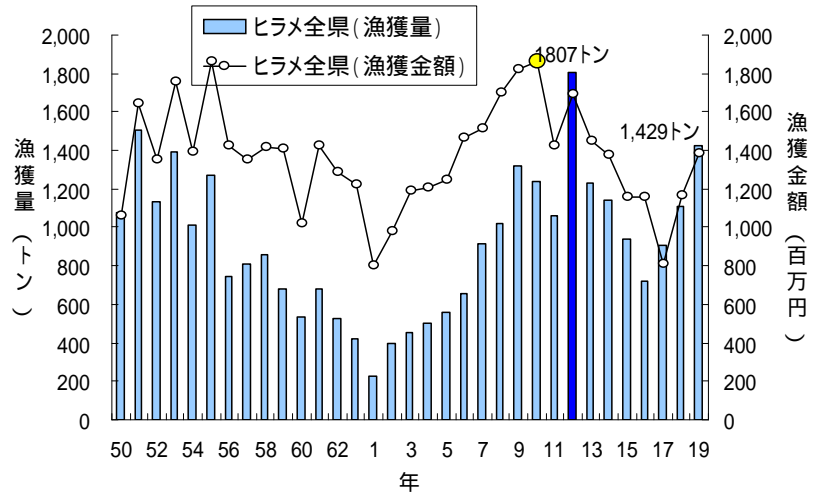
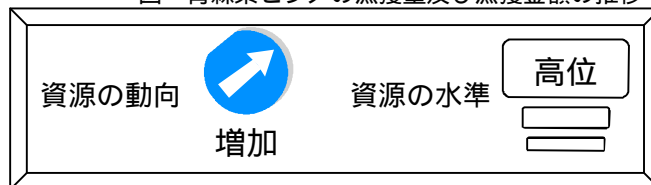


図 青森県ヒラメの漁獲量及び漁獲金額の推移

## 資源を上手に利用するために



ひらめ資源管理指針(平成2年3月)、資源管理計画(日本海平成6年3月、太平洋平成8年3月)

- 全長35cm未満の再放流の他、刺網についてはひらめ網の目合制限(6.0寸以上)、三枚網の禁止、留網の禁止などを定めている。
  - 青森県太平洋海域ヒラメ資源回復計画(平成20年3月、31ページ参照)
  - 小型ヒラメの保護を推進するため、刺網漁業では9～12月の水深10m以浅の区域、小型機船底びき網漁業は北緯41度以南の水深100m以浅の区域におけるヒラメを目的とした操業の自粛を定めている。
- 上記の取り組みを継続することが必要である。

## トピックス

- ・昭和62年に「県の魚」に制定される。
- ・平成2年以降、年間200万尾の計画で種苗放流が行われており、平成19年の放流尾数は237万尾。
- ・水産総合研究センターではつがる市と三沢市沿岸において、夏期に着底稚魚調査を実施している。年別着底指数は、日本海海域では1～351の範囲、平均92、太平洋海域では3～212の範囲、平均51で、両海域とも平成16年に最高値となった。平成19年の着底指数は日本海、太平洋とも低水

準であった平成18年より高く、特に日本海では高水準であった。

着底指数：水深別平均分布密度（個体/1000m<sup>2</sup>）の年最高値

- ・平成19年の海域別漁獲量では、津軽海峡が570トンで、昭和50年以降の最高値となった。

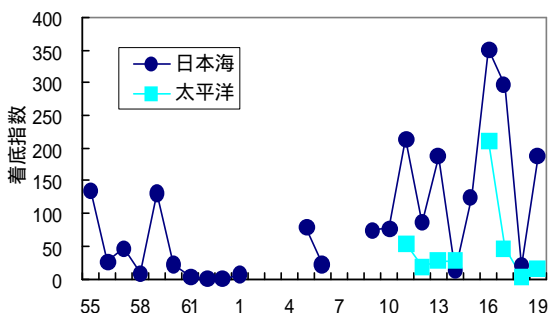


図 青森県ヒラメの海域別着底指数の推移

## 海域別漁獲量及び漁獲金額

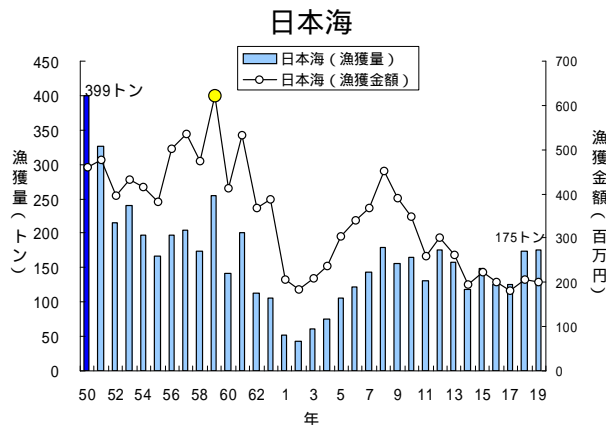
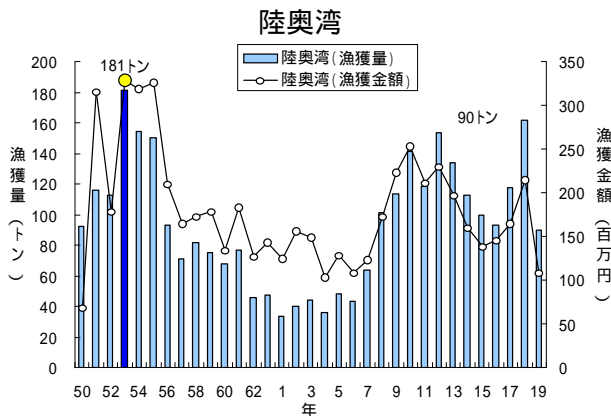
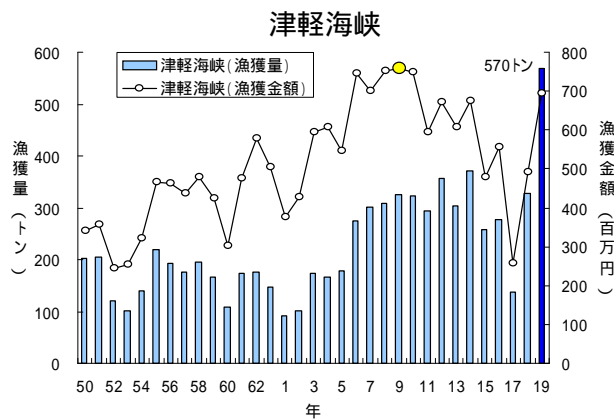
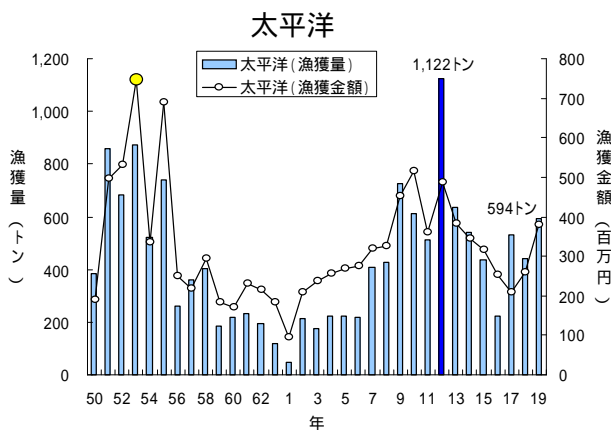


図 青森県ヒラメの海域別漁獲量及び漁獲金額の推移